

No.117 会津支部だより

発行者 高田 直樹
担当者 阿部 浩子

公益事業報告

臨床検査業務見学会

平成 30 年度臨床検査業務見学会が、7 月 28 日(土)に竹田総合病院で行われました。

今年度は会津若松市・喜多方市の 5 つの高校より、9 名が参加しました。

まず初めに高田支部長から、病院のスタッフがどんなことをやっているのかに触れそれを家族にも話してほしいと挨拶がありました。

講義では、福島県立総合衛生学院臨床検査学科の菅野正彦先生が、臨床検査技師の仕事について様々な種類があること、検査技師になるためにはいろいろな方法があること、また、衛生学院の授業や活動の様子や試験について紹介がありました。医大の新学部についての話もありました。

次いでこの春に仕事に就いた竹田総合病院臨床検査科の飯塚諒さん、同じく病理診断科の松尾大志さんが、検査技師になろうと思った理由やそれぞれの学校の特色、進路を決めるにあたってのアドバイスなどについて話しました。

続いて 4 つのグループに分かれて、例年どおり「血液・一般」「化学・免疫」「輸血」「微生物」「生理」「病理」の 6 セクションを見学しました。

アンケートによると 9 名全員が大変良かったと回答しています。保健・医療の他の分野にも幅広く興味を持っているようですが、今回一番興味を持たれた検査は微生物、次いで輸血となっています。特に病理検査で臓器に触れたことが印象に残ったようです。



喜多方市民健康祭

第 43 回きらり喜多方市民健康祭が平成 29 年 11 月 11 日(日)、喜多方市押切川公園体育館で開催されました。



会場では種々の健康チェックコーナーのほか健康啓発コーナー、健康相談、ミニ講話が行われて大勢の人が訪れていました。

技師会会津支部では今年も肺年齢測定を担当しました。準備段階で機械の設定がわからず戸惑いもありましたが、測定を開始してからは案内、誘導から測定、検査結果の説明などを割り振って順調に進みました。測定は予想外のペースで進み早々に予定の 200 名に達してしまい、その後は他の健康チェックコーナーを体験したり、屋外で行われているふれあいきたかた農業まつりを見学したりする余裕がありました。

機械の手配、準備してくださった(株)三陽の皆様、ありがとうございます。またお手伝いくださった齋藤美菜さん、谷ヶ城弘雄さん(会津中央病院)、山本美乃里さん(山鹿クリニック)、佐々木由美子さん(坂下厚生総合病院)、箭内知輝さん(有隣病院)、安部正和さん(会津西病院)、渡部瑠理さん(会津医療センター)、皆さんお疲れさまでした。

忘年会

平成 30 年 12 月 6 日(木)会津支部臨床検査技師会忘年会を桜鍋吉し多で開催しました。

馬肉づくしの料理を食しながら、一年間の労をねぎらいました。会話が尽きず大盛況の忘年会となりました。たくさんの皆様にご参加頂きまして誠にありがとうございました。小滝昇(竹田総合病院)

公益事業報告

手洗い教室

「出張手洗い教室」

平成30年10月3日(水) 二校時目
湯川村立勝常小学校

今回の手洗い教室は、平成26・27年度にも開催させていただいた小学校です。特に健康増進に励んでいる小学校で、始業前に全校児童でグラウンドをランニングしたり、一校時目に芋掘りをしたりして、とても活発な児童ばかりです。

対象は1・2年生合わせて27名の元気な児童たちで、大きな声で挨拶をいただき、微笑ましい中始まりました。

まず、二瓶憲俊さんが、紙芝居を使って臨床検査技師の役割や業務内容を分かり易く説明しました。

次に、会員の演技による『ばい菌 こわいぞ』を上演し、バイ菌の怖さや手洗いの重要性を理解してもらいました。各会員による熱のこもった演技だったので、児童の皆さんも真剣に見てくれました。

そして、卯月美江さんが、バイ菌の紹介や手を洗うTPO・順序を歌に合わせて説明して、しっかり学んでもらいました。

その後は実践です。手に蛍光塗料を塗って、手洗いでどの程度まで落ちるのか、洗い残しの部位はどこなのかを確認してもらいます。会員が手分けして児童に洗い方の指導やサポートをして、手洗いの難しさを経験してもらいました。

最後に、小林副支部長が、手洗いと健康の大切さが心に残るようにまとめをして、教室は終わりました。

ご協力いただいた会津支部の小林副支部長(坂下厚生)、二瓶憲俊さん(竹田総合)、佐藤修さん(竹田総合)、卯月美江さん(会津医療センター)、加藤淳さん(会津中央)、渡部里絵さん(会津西)、佐藤文子さん(高田厚生)、箭内知輝さん(有隣)、皆さんお疲れ様でした。

谷ヶ城弘雄(会津中央病院)



学術講演会

会津支部学術講演会が、平成31年2月8日(金)に竹田総合病院竹田ホールで開催されました。

「臨床検査とチーム医療」～チーム医療教育を通じて見えてきたもの～という題で公立大学法人福島県立医科大学新医療学部設置準備室教授吉田朋美先生に、福島医大の新学部の構想から実際に行われるチーム医療の授業まで幅広くご講演いただきました

講演はアンケートを用いて「チーム医療」とは何かを考えながら始まりました。

「人は誰で間違える」

医療現場では考えながら行動する必要があり、さらにストレスがかかる状況ではミスは誰にでも平等に起こります。また、自分が見ているものと他人に見えているものは必ずしも一致していないし、自分の発した言葉を相手も同じようにとっているとは限らないというコミュニケーションの行き違いも起こります。

医療従事者は患者さんの命を守るために「いつでも、誰にでも疑念を伝える」ことが大切で、そのためにチーム医療が存在します。チームとして機能するためには、他職種を知り理解して真の信頼関係を築くことが必要で、現在では学校でチーム医療のトレーニングが行われているとのことでした。今までチーム医療を学んでこなかった世代はどうしたらいいのか考えさせられる内容でした。

